

第5回沖縄国際映画祭開催! ～地域の魅力を発信します～

吉本興業株式会社

代表取締役社長 大崎 洋

今年、第5回を迎える沖縄国際映画祭の実行委員会委員長 吉本興業株式会社の代表取締役社長 大崎 洋氏に、今後のビジネス展開や沖縄国際映画祭についてお話を伺いました。

日本の良さを分かち合える企業にしたい。

弊社は、日本経済が右肩上がりの時代、テレビがメディアの主流という中で、所属しているタレントとともに成長してきた企業です。昨年、創立100年という節目を迎え、次の100年をどのように展開していくかと考えたとき、所属するタレントも含め社員一同が、「日本の良さ」を肌で感じ、分かち合える企業にしたいと思いました。

「日本の良さ」は世界的にも注目されており、そのグローバル化が重要視されています。しかし、グローバルを考えたとき、いきなり世界があるのではなく、地域の向こうにグローバルがあるのだと思うんです。ですから、地域の良さを再認識することはとても大事なことです。日本が最も誇れるのはアニメやゲームのものではなく、それの基盤となる日本の文化にあるのだと思います。

日本の文化の素晴らしさは、日本人の暮らしぶり、多くを求めずにやりくりをする生活そのものや、沖縄で言えば「ゆいまーる」に通じる分かち合いや助け合いの精神の延長線上にあるのだと思います。

ビジネスプランのキーワード 「地域」「アジア」「デジタル」

今後の弊社の具体的な取組として、「地域」「アジア」「デジタル」をキーワードと考えています。

「地域」での取組としては、「創立100周年記念プロジェクト」の一環として、「あなたの街に住みますプロジェクト」に取り組んでいます。全国47都道府県に若手の芸人やエリア担当社員を住まわせ、「笑いを通じて社会貢献」を掲げ、地域のローカル番組の作成、地域の観光大使、漫才を教材にしたコミュニケーション研修、地域資源を活用した特産品開発等のいろいろな取組を実施していきます。

沖縄国際映画祭で地域間交流を!

キーワードの一つを「アジア」としたのは、アジアの国々が一つにまとまることによって、ヨーロッパやアメリカと同様なブランドを構築できることで、という期待からです。弊社の企画制作力やメディア力を駆使し、



大崎社長

2009年から、「LAUGH & FACE」をコンセプトとして開催してきた沖縄国際映画祭も、今年は第5回目を迎えます。過去4回、

沖縄で開催して印象的なのは、子供やお年寄りの笑顔です。昨年はアジアを含め諸外国から参加いただいたプレスも多くいらっしゃいました。沖縄は、リゾート地として知られており、プレスの方が喜んで参加されるようです。



国際映画祭除幕式

毎年多くの県内ボランティアが参加し、映画祭を盛り上げてくれていますが、今年はさらに「沖縄国際映画祭の応援団」が発足し、宜野湾市や市の観光振興協会の強力なサポートを頂いております。

慢の名産、名物、名勝、名人、民話を盛り込んだ映像を制作し、地域間の交流に利用してもらいたいという思いでスタートさせました。それは地域の観光を促進させるだけではなく、地域間のネットワークがアジアまで次々に広がっていくことを期待しています。新たなネットワークは新たなマーケットを生み出すのではないでしようか。

「モノ」が売れるには、サービスも含めどう加工するかということも大事だと思います。また、これからビジネスは、組み合わせのアイディア勝負です。例えば、「ガールズコレクション」は、ファッショントリビュートとe-commerce（インターネットなどを利用した商取引）の組み合わせが効果的なビジネスになりました。

例えば、沖縄の組踊りやエイサー等の伝統芸能は、沖縄の若い人たちがしっかりと継承しておらず素晴らしいと思いますが、それをどのように再演出して新しい現代のショーとして見せるかという視点も大事です。日本の伝統芸能にブロードウェイの演出家を迎えるということもやつていかなければ、中国などのアジア諸国にかなわないと思うのです。

沖縄国際映画祭では、地元CMや地域映画の制作に取り組んでいます。とともに、おらが村、おらが町の自



第五回 沖縄国際映画祭
5th OKINAWA INTERNATIONAL MOVIE FESTIVAL
2013.03.23(土)~03.30(土) | www.oimf.jp

第5回沖縄国際映画祭メインポスター

那覇市在住の金城 拓さんの作品。デザインは、「シーサー」「ミルク神」「ブタ」「マンガース」「ヤギ」「キジムナー」「ジンベイザメ」「ヤンバルクイナ」といった沖縄にまつわるキャラクターが笑顔で円になり、笑いの力で平和を広げていくという世界観が表現されています。

◆「インタビュアーの感想」
地域にスポットを当て、デジタルを活用しながらアジア展開に取り組む

第5回 沖縄国際映画祭

期 間
2013年
3月23日(土)~3月30日(土)

会 場

沖縄コンベンションセンター及び周辺地区(宜野湾市)、桜坂劇場及び國際通り周辺(那覇市)、北谷町及び沖縄県内各所
HP アドレス : www.oimf.jp

という大崎社長のお話は、日本各地とアジアがつながる手法として期待感が持てます。沖縄でも新たな取組に積極的に挑んでいくことで、新しい産業が生まれるのではないかと感じました。

したところ、全国46都道府県と沖縄41市町村からアイディアが寄せられ、現在各地のCM制作中です。その中から、映画祭期間中にグランプリを発表し、賞の授与などを行います。

また、エンターテイメントビレッジ構想を沖縄でできないかという提案をしています。今は存在しないような職業を自ら創り出して、そのため必要な知識を得るための学校が構想の中核になります。エンターテイメントを柱とする行政体のようなものを作ろうという構想案です。沖縄で、アジアの人材も含めた育成や交流事業ができるといいですね。